

■■■「釜ヶ崎の防災・減災を考える」シリーズ(4)

釜ヶ崎のまち再生フォーラム（事務局長）ありむら潜

「大阪市立阿倍野防災センターでの体験学習ルポ」

2005年3月19日（土）13:00～2時間程度

参加者13人

■震災体験学習ツアーを実施

南海地震や上町地震はやがて必ず来ます。

自分で自分の身は守る心構えもとてもたいせつです。「公助1・共助2・自助7」という割合が言われていて、「自助」の意識を促進しようという企画です。

3月19日（土）。釜ヶ崎のまち再生フォーラムはおっちゃんたちに呼びかけて、大阪市立阿倍野防災センターへの体験学習ツアーを実施しました。

居宅保護（一般アパート居住、サポータィブハウス居住両方）や半就労・半生活保護の高齢者を中心に13名が釜ヶ崎から徒歩で同センターへ。

まず、「こんな近くにこんな施設があったなんて・・・（意外！）」というのがホンネ。

あなたを襲（おそ）う巨大災害～災害体験コーナー」というのがあって、**防災体験学習の順路を100分かけてめぐりました。**

大画面あり、映画のようなセットあり。過去の大地震の振動（しんどう）、地震発生直後の町並みなどを体感。

そして、火元を消す・煙の中で避難（ひなん）する・消火器を使う・119番通報・タンスの下敷きになった人の救出のしかた・応急救護のしかたなどなど、パニックの中での対処のしかたなどを順に進みました。

旧来の大地震体験コーナーでは、「阪神大震災」の本体の揺れの時間の意外な短さ（体験的にはもっともっと長かったと思うのですが）、逆に宮城沖地震（トラフ内地殻型）の驚くほどの強烈さなどが今も身体に残っています。

予想される南海地震の揺れも体験しました。震度5以上の激しい揺（ゆ）れのなかでは動くことは不可能ですね。

「よお踏んぱつとかとんと足腰がガタガタや」とおっちゃんたちも真剣そのもの。

初歩的な模擬（もぎ）体験ばかりとはいえ、わずかな経験の差が生死を分けます。

こうした小さなことの積み重ねがだいじかなと感じました。

また、震災発生初期段階で負傷したら、治療は病院ではなく（機能していないことも多い）、警察や消防署などに緊急開設される「応急救護所」に行くべきことなども頭に残っていま

す。

全員、終了証をいただきました。

施設的にはもう少し体験メニューが増えてもいいかなとも思いますが、せつかくの地元資源なのですから、読者のみなさんも一度いかがですか。

参加するには、グループで申し込む必要があります。

おっちゃんのみなさん。近くの支援団体や施設などに見学を提案してみてもいかが？

大阪市立阿倍野防災センターのホームページ

<http://www.abeno-bosai-c.city.osaka.jp/bousai/bsw/a/a/bswaa010.aspx>

当日はぼかぼかと暖かい春日和で、ちょっとしたピクニック気分。

終わったあとは、「ここが阿倍野再開発地域やでえ。失敗事例の街やでえ」「でも、あの温泉はほんまもんを運んできているらしい。なかなかええらしいゾ」などとのたまいながら、生活臭のない商店街のさびれた空気を胸いっぱい吸いつつ、旧来の商店街へ。

そこで、とってもおいしいコーヒー屋さんをたまたま見つけ、みんなで楽しみながらの、のどかな風景がそこにはありました。

願わくば、このまま災害など起こらず、安寧に時がゆったりと流れますように。

釜ヶ崎で苦勞してきた人々におだやかな老後の時間をくださいますように。

以上